

令和8年度 学校経営計画

長瀬町立長瀬第一小学校

1 学校教育目標

○深く考える子 ○心豊かな子 ○たくましい子

2 校訓

「至誠（しせい）」＝まごころを尽くし合い

「協和（きょうわ）」＝みんな仲よく

「修行（しゅうぎょう）」＝たゆまず学び続ける

3 めざす学校像

まごころを尽くし合い、みんな仲よく、たゆまず学び続け、ありがとうがあふれる学校

4 めざす児童像

まごころを尽くし合い、みんな仲よく、たゆまず学び続ける子

■元気な挨拶と返事、丁寧な言葉遣いができる子

（だれにでも挨拶、元気な返事、場に応じた言葉遣い）

■人のために、自分の力を役立てようとする子

（当番や清掃、委員会等の仕事、ボランティア活動にすすんで取り組む）

■互いによさを認め合い、高め合う子

（相手のよいところを認め、よりよくなるために声をかけ合い、協力する）

■腰骨を立て（※1）、課題に粘り強く取り組み、真剣に学ぶ子

（立腰、授業の準備、時計を見て行動、話の聞き方、あきらめずに課題に取り組む）

■すすんで家庭学習や読書に取り組む子

（家庭での学習や読書に継続して取り組む）

5 めざす教師像

まごころを尽くし合い、組織の一員として、たゆまず学び続ける教師

■児童ととことん向き合う教師

（児童に寄り添い、そばで励まし、がんばりを見届ける。）

■児童のよさを見つけ、やる気を引き出す教師

（褒める種をまき、よさを認め合う学級経営を実践する。）

■互いをリスペクトし合う教師

（多様性を尊重し、職員一人一人が「チーム長一」にとって重要な一員であると自覚する。）

■知恵を結集して、共に汗を流す教師

（アイデアを出し合い、目標を共有して、全員で汗を流す。）

■謙虚な姿勢で学び続ける教師

（接遇（※2）を心がけ、児童とともに、日々成長しようとする。）

☆教師こそ、児童にとって最大の教育環境である。

6 学校経営方針

- (1) 児童が主役となる教育活動を進め、ありがとうがあふれる学校を作る。
- (2) 教育の基本姿勢として、すべての教職員がカウンセリングマインド(※3)を持ち、児童の自己肯定感を高める。
- (3) 教え、考えさせ、見届ける指導を行い、児童に確かな学力を身に付けさせる。
- (4) 地域の教育資源を活かし、「ふるさと教育」(※4)を推進し、児童の郷土愛を育成する。
- (5) 児童のやる気を引き出し、学びへの意欲と学ぶ習慣等、自立への基礎を築く。

7 本年度の重点目標

＜深く考える子＞

- 家庭学習の定着（低学年30分、中学年40分、高学年60分以上）
 - ・家庭学習重点期間における目標学習時間達成率 90%以上をめざす。
- 読書の習慣化（低学年100冊、中学年40冊、高学年20冊）
 - ・学年の目標読書冊数達成率 80%をめざす。
- 教え、考えさせ、見届ける指導の徹底
 - ・長瀬町「学力向上の共通テーマ」の視点に沿った授業改善を行う。

- ☐ 本時の学習のねらいを児童が理解できるように工夫する。
- ☐ 学びを深めるため、児童が考える場面と教師が教える場面を適切に組み立てる。
- ☐ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学び合いの機会を適切に設ける。
- ☐ ねらい・課題に正対したまとめ、児童の言葉を使ったまとめをする。（全員で）
- ☐ 次時や日常生活につながる振り返りをする。（一人一人で）
- ☐ 学習の効果を高めるため、I C Tを積極的に活用する。

- ・児童のやる気を引き出す学級経営をめざす。
- 学習規律の徹底（生徒指導上の共通認識・共通行動）
 - ・時を守る（時刻で始め、時刻で終える）。
 - ・次の授業の準備をする。
 - ・腰骨を立て、集中して話を聴く。

＜心豊かな子＞

- 不登校の未然防止、いじめ解消率100%
 - ・不登校児童への組織的対応、欠席が気になる児童への早期対応をする。
 - ・児童の小さな変化も見逃さず、組織で対応する（報告・連絡・相談）。
- 元気なあいさつと返事、温かい言葉かけと丁寧な言葉づかいの励行
 - ・「あかるく、いつも、さきに、つづけてひと言」を実践する。
 - ・名前を呼ばれたら、「はい」と大きな声で返事ができるようにする。
 - ・友達への温かい言葉かけ、場面に応じた適切な言葉づかいができるようにする。
 - ・授業中は、呼び捨てやあだ名での呼び方をしない。「〇〇さん」
- 縦割り班活動の充実
 - ・縦割り清掃、縦割り班遊び、縦割り行事を通して、リーダーシップを育て、仲間と協力することのよさを経験できるようにする。

○きれいな学校づくり・整理整頓の習慣化

- ・くつそろえをする、脱いだ衣服を整える、椅子をしまう、みんなで使う場所をきれいに使う。
- ・「無言清掃」と「見つけ掃除」が徹底できるようにする。

＜たくましい子＞

○体力の向上

- ・体育授業を充実させる。（運動量の確保、できる喜びを味わわせるための場や手立て）
- ・休み時間の外遊びを励行する。
- ・児童の体力の実態を踏まえた体力向上の取組（年間を通じて体力向上を図る）

○望ましい食習慣と生活リズムの確立

- ・栄養教諭と連携した食育指導 100%実施をめざす。
- ・家庭と連携し「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち・メディア時短」を推進する。

○逆上がりの習得

- ・年間を通じて鉄棒に慣れ親しむ機会を設ける。
- ・補助板あり70%、補助板なし50%以上達成をめざす。

○学校健康診断後の受診率向上

- ・虫歯治療率 80%をめざす。

※ 1 【腰骨を立てる（立腰教育）】

○腰骨を立てるとは…

- ・別紙参照

※ 2 【接遇】

○接遇とは…

- ・別紙参照

○その他の共通理解

- ・取次や折り返す際、日付と時刻を必ずメモし、当該職員に渡す。
- ・結論から先に報告する。
- ・公金を扱う際に、自身の購入ポイント等は付けない。

※ 3 【カウンセリング・マインド】

○カウンセリング・マインドとは…

教育相談という特別な分野のものではなく、教育の基本的姿勢として、すべての教員が持たなければならないものである。

○カウンセリング・マインドの基本的な考え方

- ・「どの児童もかけがえのない存在である」という人間尊重と「どの児童も、もっとよくなりたいという成長の動機を持った主体的な存在である」という人間信頼の立場に立つ。
- ・児童の気持ちを敏感に感じ取り、共感的に理解し、安心して何でも言える関係をつくることを大切にする。
- ・できるだけ児童が自分で気づき、自己決定できるように援助する。

※ 4 【ふるさと教育】

○「ふるさと教育」とは…

地域のひととのふれあいや地域での様々な体験等を通して、学ぶ喜びや充実感を味わわせ、ふるさとへの愛着と誇りを養うとともに、心豊かな人間性・社会性を育む。さらに、地域の一員として地域に貢献したり、地域を大切にしたりしようとする心を育成する。

○「ふるさと教育」を推進するために

地域の人から学ぶ

- ・ 地域の人とふれ合い、地域の人たちの温かさを感じるとともに、地域の人思いを知る。(できるだけ足を運び、本物の体験を)

地域について学ぶ

- ・ 自分たちの住む地域について学び、地域の魅力を再発見し、地域に対する誇りと愛着心を育てる。(学校応援団、自然の博物館等、地域の教育資源の活用)

学んだことを地域に生かす

- ・ 地域の人思いや生き方を学習するとともに、地域の一員として、地域のためにできることを考え、行動する。

8 チーム長一小として

○ 働き方改革

- ・ 1日10分早く退勤するためにできることを申告する(当初面談時)。(働き方改革の一丁目一番地は、自身の意識改革)
- ・ 毎週木曜日を長一小ふれあいデーとし、17:30の退勤をめざす。
- ・ 月1回ふれあいデーとして定時退勤日とする。
- ・ 前例踏襲にとらわれず、行事の精選など、アイデアを出し合う。
- ・ 働かない改革にはしない。

○ 働きやすい職場

- ・ 職員同士、来校者、地域の方などとあいさつをし合う(声や会釈など)。
- ・ ありがとうを伝え合う。
 - * あたりまえのなかにこそ、ありがとう
 - * スミマセンやゴメンナサイよりも、ありがとう
- ・ 勢いや発言力のある大きな声で物事を決定していくのではなく、メリットデメリットを整理して冷静に判断していく。今までやってきているからやるのではなく、続けてきた意図やメリットを見抜き、続けていくものなのか、時代の変化に伴い変えていくものなのかを精選していく。
- ・ 外部への派出文や書懸案事項及び新規提案等は、主幹—教頭—校長の順で起案する。(予算関係は教頭—校長)
- ・ 使用物品や予算執行について、コストカットの視点を持つ。

○ 児童への指導

- ・ 冷静で適切な指導を心がける。
 - * 語気を強めても指導の意図が児童に響かないことがある。叱られたことだけを認識し、なぜ叱られたのか理解できないケースあり。
- ・ 安全に配慮し、児童の命を守る視点をもち続ける。